入学前課題講評（地域研究学域）

地域研究学域に入学するみなさんには、「課題図書」の解説が課されました。その課題の目的は、「地域を理解する視点と方法」がどのようなものかについて考えることでした。しかし、その図書についてほとんど触れることもなく、全く別の文献、なかにはインターネット得た情報だけで書いているだけのものがいくつかありました。

まずは、前半で「地域を理解する視点と方法」を説明し、後半には本書で紹介されている事例をもとに、より具体的に「地域を理解する視点と方法」を解説していくべきでしょう。そのためには図書を精読し、そのつどポイントをノートに書き出し、それをもとに自分の文章を書くべきです。そして、「あなたの学んだ地域の理解力を、入学後にどのように活かすか」についてまとめてください。

重要なのは、常に読み手のことを視野に入れて書くことです。いくつかの段落に分割する、その冒頭は１文字下げる、適切なところで句読点を入れるなど、文章を書くうえで基本的なことは厳守してください。そして、一度書き上げた文章を音読して、推敲してみましょう。そうすると１文が長すぎたり、主従関係が成立していなかったり、文章表現が不自然であったりする箇所に気づきやすくなります。もちろん、大学生活での文章表現の予習のために、「ですます調」ではなく「である調」で書きましょう。

文学部では、すべての学域で卒業論文の執筆が必修になっています。地域研究学域では、フィールドワークで得た一次資料をもとに作成した図表を 10 枚程度作成し、その解説として本文を 12,000～20,000 字で書くことになります。すでに先人が明らかにした情報、「インターネット得た情報」をまとめなおすのは、卒業論文にはなりません。地域の様子について、入学前に「地域を理解する視点と方法」についていま一度考え、そして文章力の向上に努めてください。